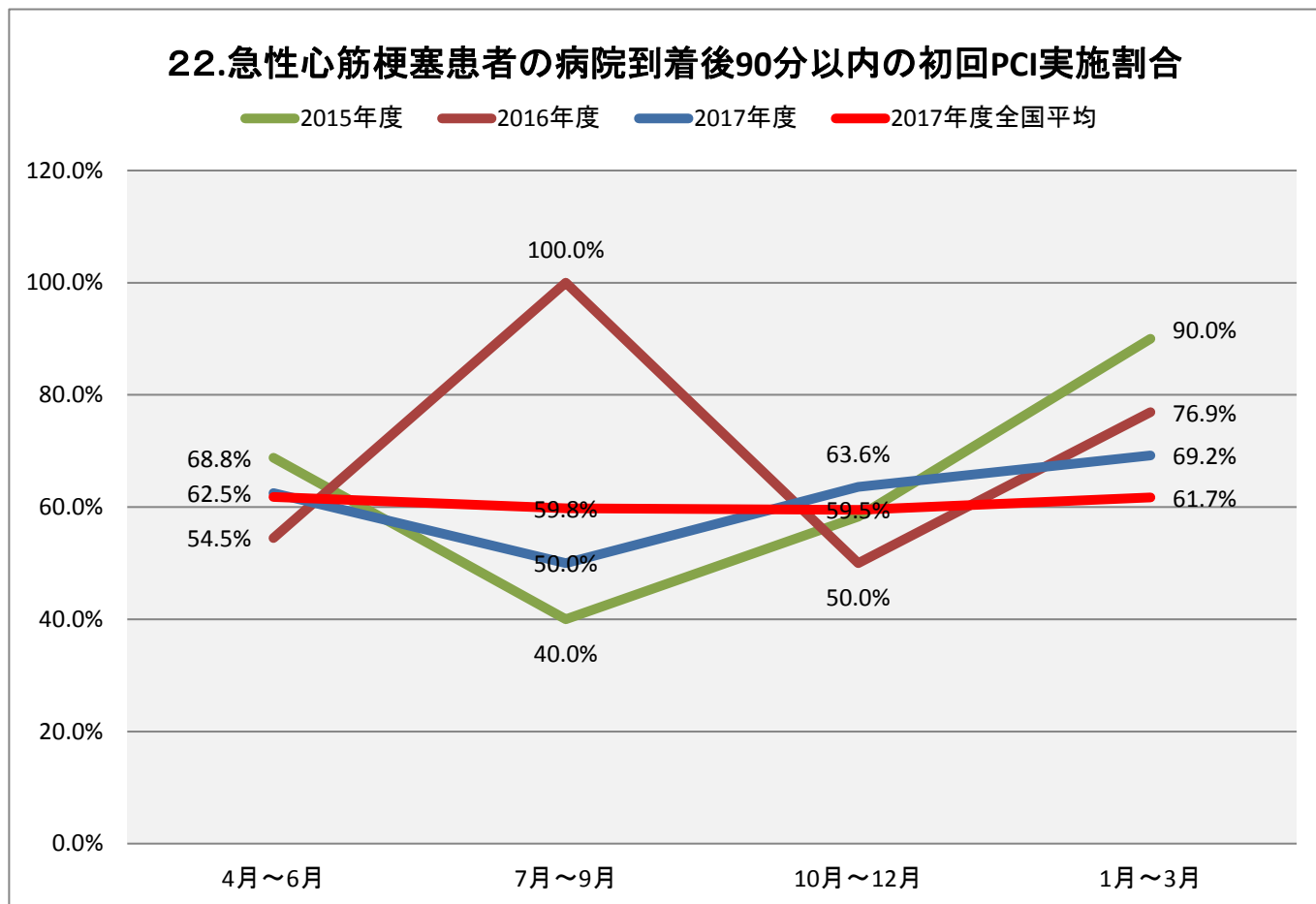


## 22.急性心筋梗塞患者の病院到着後90分以内の初回PCI実施割合

### (1)調査結果



| 調査期間       | 4月～6月 | 7月～9月  | 10月～12月 | 1月～3月 |
|------------|-------|--------|---------|-------|
| 2017年度     | 62.5% | 50.0%  | 63.6%   | 69.2% |
| 2016年度     | 54.5% | 100.0% | 50.0%   | 76.9% |
| 2015年度     | 68.8% | 40.0%  | 58.3%   | 90.0% |
| 2017年度全国平均 | 61.8% | 59.8%  | 59.5%   | 61.7% |

### (2) 指標の説明

急性心筋梗塞の治療には、発症後可能な限り早期に再灌流療法を行うことが、生命予後の改善に重要です。現在、発症後に12時間以内は早期再灌流療法の適応とされ、主にバルーンやステントを使用したPCIが行われます。また、血栓吸引療法を併用する場合があります。病院到着(door)からPCI(balloon)までの時間は、急性心筋梗塞と診断されてから、緊急心臓カテーテル検査と治療のためのスタッフならびにカテーテル室の準備、さらにPCIの手技までを含む複合的な時間であり、door-to-balloon時間と呼ばれます。具体的にはdoor-to-balloon時間が90分以内であること、あるいは90分以内に再灌流療法が施行された患者さんの割合が50%以上という指標が用いられます。2015年度から採用された項目です。

### (3) 定義

分子: 分母のうち、来院後90分以内に手技を受けた患者数  
 分母: 18歳以上の急性心筋梗塞でPCIを受けた患者数

### (4) 考察

当院では、対象患者さんに早期治療が行えるよう、スタッフを含め治療体制を強化し、高い実施率になるよう努めています。今後も継続していきたいと考えています。